

2025 年 12 月 10 日

一般社団法人Jミルク

日本酪農の持続可能性 識者、生産者ら討論

海外情勢も紹介 来年 3 月 2 日に研究会開催

Jミルクは 2026 年 3 月 2 日(月)に、

日本の持続可能な酪農研究会 ～国内外の“サステナ”を知り現場での実践につなげるために～

を下記の要領で開催します。

日本の酪農の現場事情に詳しい識者や、酪農家、大手乳業メーカーの酪農担当者らが、搾乳の自動化や家畜福祉、飼料自給、温室効果ガス削減など、酪農の持続可能性を考える上で重要な課題となるテーマについて講演します。また、「日本の持続可能な酪農をどう進めるか」をテーマに、講演者を交えた討論会を行います。

海外ではこうした取り組みで成果を挙げている事例も報告されており、日本国内の業界関係者にとって示唆に富む内容が多いことから、今年 10 月にチリで開催された国際酪農連盟(IDF)のワールド・デリー・サミットや、酪農乳業の国際組織である国際酪農比較ネットワーク(IFCN)、グローバル・デリー・プラットフォーム(GDP)の情報、事例をご紹介するとともに、日本国内の取り組み事例についても、ご紹介します。

酪農生産者、酪農乳業関連組織、企業の酪農担当部門の方々を中心に、広く、日本の酪農生産の持続可能性について関係者が共に考える場としたいと考えています。

記

1. 日時

2026 年 3 月 2 日(月) 午前 10 時 30 分～午後 7 時

講演会 * 10:35～14:25 (昼食 12:20～13:05)

討論会 * 14:45～16:45

交流会 17:30～19:00

* オンラインでの参加(Zoom)も可能です。また、後日、講演会と討論会のオンデマンド配信を実施予定です。

2. 会場

アルカディア市ヶ谷(私学会館)

東京都千代田区九段北 4-2-25 (<https://www.arcadia-jp.org/access/>)

3. 参加対象者

酪農生産者、酪農乳業関連組織、企業の酪農担当者、行政関係者、メディア など

4. 参加申し込み

参加または取材される方は、事前に申し込みをお願いいたします。

(申し込み期日:2026 年 2 月 20 日(金))

<申し込みフォーム> <https://forms.gle/4Hiex3tt2VDX5zpD7>

<QR コード> 右記

※会場の座席数には限りがありますので、座席数を越えた申し込みがあった場合は、オンラインでのご参加を案内させていただくこともあります。

(会場参加、オンライン参加、オンデマンド視聴とも、参加費は無料です)



5. 当日の主なプログラム(予定)

◆ 講演会

- ・「搾乳の自動化と酪農の未来」 森田 茂 酪農学園大学教授
 - ・「家畜福祉(仮)」 近藤 誠司 北海道大学名誉教授
 - ・「飼料自給構造の国際比較—IFCN データが示す持続可能性の視点(仮)」 日向 貴久 酪農学園大学教授
 - ・「“サステナ”で変わる世界の酪農乳業～GDP の取り組みと日本へのメッセージ(仮)」 木ノ内 俊 氏(Jミルク)
 - ・「IDF 酪農家円卓会議」 栗原 丈治 氏(Jミルク)
 - ・「酪農を持続可能に～Meiji Dairy Advisory(メイジ・デイルリー・アドバイザー)による経営支援～(仮)」 木村 康行 氏(明治)
 - ・「酪農現場から進める GHG 削減への道—GHG 算定シートを活用した排出源の見える化—(仮)」 内藤 健憲 氏(森永乳業)
 - ・「リジェネラティブな酪農とは～北海道の事例から～(仮)」 越智 成東 氏(雪印メグミルク)
 - ・「Jミルクにおけるアニマルウェルフェアへの取り組み」 関 芳和 氏(Jミルク)
- (※上記に加え、酪農家による講演を予定)

◆ 討論会「日本の持続可能な酪農をどう進めるか」(仮)

- ・第一部 「海外」の取り組みから“サステナ”を知り酪農現場での実践につなげる
- ・第二部 「国内」の取り組みから“サステナ”を知り酪農現場での実践につなげる

モデレーター : 生源寺 真一 東京大学・福島大学 名誉教授

清水池 義治 北海道大学准教授

パネリスト : 上記の講演者・報告者

◆ 交流会(懇親会)

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

国際グループ 菅沼、岡島

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 御茶ノ水安田ビル 5 階

電話:03-5577-7495